

# きょうと健康スタイル

VOLUME 9

## がんを引き起こす 細菌やウイルスについて

きょうと健康スタイル 検索

日本人の2人に1人は一生に一度がんになるといわれています。

がんの原因にはさまざまなものがありますが、いくつかのがんはウイルスや細菌の感染が原因となることが分かっています。これらのがんは感染の有無を確認し、がんになる前に早期に治療することができます。

### 肝がんと

#### B型・C型肝炎ウイルス

血液を介した感染のため、タトゥー（入れ墨）や、消毒が不十分なは

り治療などが原因となることがあります。性交渉も感染の原因となり得ます。ウイルスに感染すると一部は「慢性肝炎」となり、肝硬変や肝がんへと進行する場合があります。簡単な血液検査で感染しているかどうか確認でき、ウイルスを排除したり、増殖を抑える治療が行われます。また、B型肝炎はワクチンで予防することも可能です。

一生に一度は  
肝炎ウイルス検査を  
受けましょう



### 胃がんとピロリ菌



ヘリコバクター・ピロリ  
(ピロリ菌)

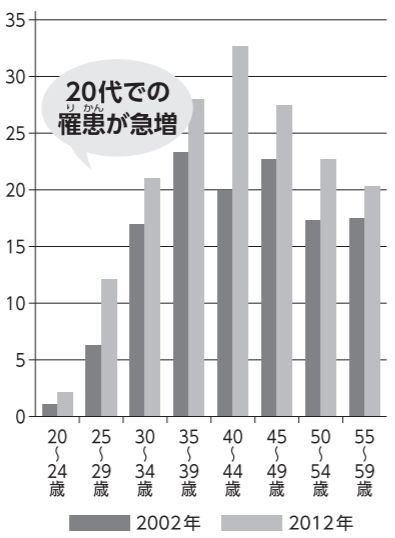
日本人はピロリ菌感染者が多く、60歳以上では80%以上の方が感染しています。幼少期に不衛生な生水を飲むなどして胃に感染し、退治しない限りずっと感染し続けます。ピロリ菌

の感染が「萎縮性胃炎」を引き起こし、持続すると胃・十二指腸潰瘍や胃がんを発症するリスクを高めます。感染を確認するには血液検査や尿検査などのほか、胃カメラで感染の有無や胃炎の状態を調べることができます。ピロリ菌は3種類の薬を1週間飲むことで除菌治療ができます。

### 子宮頸がんとヒトパピローマウイルス(HPV)

HPVは100種類以上あるありふれたウイルスで、子宮頸がんの原因となるウイルスは15種類あります。性交渉で感染し、ほとんどは免疫によって排除されますが、排除できなかつた場合、数年から数十年かけてがんへと進行します。20歳以上の女性は2年に1回の検診が勧められています。またHPV感染を予防するワクチンもあります。

■子宮頸がん年齢階級別罹患率  
(推計値)／人口10万対



出典：国立がん研究センターがん対策情報センター  
がん情報サービス

20代での  
がん罹患が急増

これらの細菌やウイルスは感染からゆっくると時間をかけてがんへと進むため、早期に感染を確認し治療を行えばがんの予防が可能です。しかし原因を排除しても完全にがんを防ぐことはありません。定期的に検診を受けることが重要です。胃がんや子宮頸がん検診のお問い合わせはお住まいの市町村へ。肝炎ウイルス検査は市町村の検診で行われている場合がある他、京都府保健所や京都市保健センターなどでも実施しています。

監修／医務主幹 瀬古 裕也

### 京都府健康福祉部健康対策課

京都市上京区下立売通新町西入敷ノ内町 TEL 075・414・4766

企画・制作=京都新聞COM